



2011年9月  
第5号  
東日本大震災支援  
特集

# だんだん

隠岐広域連合立 隠岐島前病院  
<http://fish.miracle.ne.jp/dozen/>

- \*\*\*今回の内容\*\*\*
1. はじめに
  2. 活動報告
  3. おわりに
  4. 次回予告

## 1. はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災による被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈りながら6ヶ月が経過しました。復興の兆しを感じながらも震災の痛みはとうぶん解決しそうにありません。

全国から被災地にむけて支援活動が始まる中、私達も「何かお手伝いしたい・・・」という思いが募っていました。そんなころ被災地の気仙沼市で気仙沼在宅支援プロジェクト（JRS）が立ち上がっていました。被災を免れた家に多くの高齢者が取り残され在宅医療が必要な状況があり、全国から集まった医師、看護師たちでチームを組んで訪問診療を行うというものでした。このプロジェクトから「医師に比べて看護師が不足している」「看護師の継続派遣を求める」の情報を得ました。一人ずつではありますが3ヶ月の継続支援を決めました。現地の事務局担当者の負担を少しでも緩和できるように先発メンバーと後発メンバーが東京で合流し活動内容の申し送りを行いながら継続支援活動を無事行うことができました。「お手伝いをさせていただく・・・」という私達の思いが、多くの気づきと学びに変わりました。

私達を受け入れてくださった東北の皆様、JRSの皆様、また東北に出かけるにあたり住民の皆様のご理解ご協力に心より感謝申し上げます。

看護師長 松浦 幸子



3ヶ月のバトン、申し送りノート



東京での申し送りの様子



## 2. 活動報告

3ヶ月にわたった JRS への活動支援、参加者の感想を紹介します。

### ① 看護師 赤澤啓吾

5月9日より、島前病院から第一弾として気仙沼に支援に行きました。震災直後よりテレビ越しに見る東北の惨状を目にするたびに何かの形で力になりたいと思っていました。そして、自分はいつでも行けるぞと、心構えをしていたつもりでした。しかし、東北支援の話が急に決まり、いざ出発となると気持ちの整理も荷物の整理も出来ず気仙沼まで向かうこととなりました。

私の目標として①被災者の少しでも役に立てること、②島前病院の継続支援の為に情報収集と土台を作ってくること、でした。

実際に被災地に到着し、沿岸部の壊滅的な光景を見て、言葉をなくし感情をどう表わしたらいいかさえわかりませんでした。

たった一週間で被災者のために自分に何が出来たかは未だにわかりません。被災者の方と接し自分が思った事として、津波で目の前の当たり前の状況が一気に変化し、その中でも東北の人は一生懸命生きていました。当たり前の事が当たり前では無くなる事を知り、「今」の大切さを知りました。これからの人生を一生懸命生きようと思いました。

もう一度、気仙沼の復興した街を見に行きたいと思います。

### ②看護師 前田小百合

「こんにちは。いらっしゃい。」と患者さん・家族のみなさんは笑顔で迎えてくれました。患者さん・家族と接している時間はいつもと同じ、西ノ島で訪問看護をしているかのような時間でした。「被害にあった患者さんだから特別な事をしないと」と考えがちですが、そうではなく「普段の生活で困っているを手伝う」ただそれだけでした。医療においてはですが、現在の被災地に過度な支援は必要ないと感じました。必要なのは震災前と変わらない生活を送るための支援であり、そのために私たち島前病院チームは普段行っている地域医療の力を発揮しなければいけないと思いました。

ある患者さんが「ここは良い所なんだよ。すごくキレイな所。これからドンドン良くなっていくから！今度は遊びにおいで！！」とってくださいました。この言葉に私は強い力を感じ、気仙沼・東北はきっと復興していく！と確信しました。そして、私たちはそれまで応援していかなければ！応援していきたい！と思いました。

今回の東北支援に参加でき、看護師として、私個人としても色々な事を感じ、吸収できたと思います。また、島前病院でやってきたことにも自信が持てました。この経験を大切に今後の看護に活かしていこうと思います。





## ③看護師 家中ふみ代

今回の東北支援において島前病院の目的は継続支援でした。その支援活動（JRS）に支援隊の一員として参加させて頂いた事は人生半ば過ぎる私の人生において大きな収穫でした。特別な支援をした訳ではなく、いつも当院で行っている看護を提供させて頂きました。それらが被災地の方のお役に立てたのか？はわかりませんが、当院のスタッフ 11 名が約3ヶ月間継続して支援させて頂いた事は同じレベルで看護を提供出来、同じ気持ちで関わる事が出来たと確信しています。同時に、継続看護・継続支援の大切さ、必要性を強く感じる事ができました。今回の支援活動を通して、まだまだ続くであろう支援活動において一個人で出来る事、当院のスタッフで出来る事を探し続けて行かなければならないと考えています。



最後に JRS の活動をボランティアとしてコーディネーター役を引き受けていた若い看護師 3 人の志に日本の医療を担っていく力強さを感じました。

がんばろう東北！がんばれ若者！

## ④看護師 為保麻美

訪問看護も往診の経験もないまま東北支援へ行くことに…。私がどこまでお役に立つことができるのかと不安を抱えたままの東北入りでしたが東北の方やチームを組んだ Dr はそんな私を「そのままの私」として受け入れてくださいました。背伸びをせず、今の私の持っている知識を活かし、わからないことは教えていただきながらの活動でした。



Dr と訪問診療に行く中で、推測ではなく「きちんと聞きだすこと」の大切さを学びました。その人や家族の言葉から「きっとこうなんだろう」と望んでいることを推測するのではなく、対話の中から聞きだしアセスメントすることによってその人たちが望むゴールに向けて「必要な医療」が提供できる。このことは、日々病院でケアをしていく上でも、1日1日を消化していくのではなく、日々のケアの積み重ねが望むゴールへの道になっていくのだと改めて感じ、日々のケアの意味を考えるきっかけにもなりました

今回の支援でもたくさんのステキな出逢いを経験することができたことに感謝します。この震災によって私は人のつながりの大切さを改めて学ぶことができました。支援を通して学んだことを少しでも今後役に立てていこう！と心に誓い日々の看護に従事しています。

## ⑤看護師 新里礼子

東北支援に参加させて頂き他職種のスタッフを関わったことで、訪問看護は対象の患者さんだけに目を向けて行くのではなく、その患者さんを支える家族や環境、時期をしっかりとみきわけ、今は何が必要で大切なのかを考え、声かけや行動していく重要さを再確認しました。また、自分が普段している訪問看護はどうなのかを見つめ直すことも出来る機会も与えて頂き良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。





## ⑥看護師 坂田尚子

## だんだん



気仙沼に入り、報道などで知る以上の被災地の状況を目の前にして、何ができるのか？何も出来ないのではないかと考えもしましたが、まずは引き継いだ患者さんを次に渡すという目標のもと仕事をさせてもらいました。たった1人の小さな力では何もできなかったと思いますが、一緒に訪問をさせてもらった Dr や栄養士さん、患者さんに関わっている家族をはじめ、地元のケアマネさんや訪問入浴の方などの力を借りて仕事をさせてもらいました。また、島前病院のスタッフから渡されるバトン、これから渡していくバトン、それも活動するための機動力になったと思います。小さな力が少しでも大きな力となってくれることを願う1週間であり、貴重な時間を過ごせた1週間でした。ありがとうございました。

島に帰って来てからは「お疲れさま。ありがとね」と患者さんから掛けてもらった言葉が今でも心に残っています



## ⑦看護師 佐藤優子

東京で申し送りを聞き、薬剤師の島崎さんと一緒に気仙沼に向かいました。自分に何が出来るのだろうか？と不安をかかえながら現地に入り、まず JRS 本部にて朝のミーティングを済ませ訪問に出かけました。地図とナビを頼りになんとか訪問先にたどりつき、訪問先では心よく受け入れてもらい処置後は時間の許す限り話を聞かせて頂きました。震災の話はもちろんの事、震災前の状況等についての話の中で医療に対して不信感があったが、震災後 JRS の活動により自分達に手を差し伸べて頂いた事に感謝している事、出来るだけ最後まで在宅で生活したいとお話して頂いた事が印象強く残っています。今回の支援にあたり被災地の方の我慢強さ、前向きな姿勢を肌で感じ、自分を見つめ直すよききっかけとなりました。今後の人生・仕事に生かしていきたいと思います。



## ⑧薬剤師 嶋崎裕子

東北へは薬剤師として行ったのと看護師さんのサポートとしていったのと2回いきました。1回目は、避難所での薬の調剤がメインでした。2回目は、薬剤師の私にとって、患者さんと接する機会があまりなかったため、看護師さんと患者さんのやりとりがとても新鮮でした。ただ単に患者さんの話を聞くことが、実は大事だったりするんだなあって実感しました。特別な事をするのではなく、今、患者さんが何を望んでいるのが、何に不安を抱いているのか聞くことが、実は患者さんとしっかり向き合うって事なんだと、一緒に行った看護師さんを見ていて思いました。

東北の患者さんに自宅たくさんお話を聞いてから、もっともっと地域に近い薬剤師になりたいと思い、在宅医療へ関わっていく出だしの一歩になりました。

薬剤師としてまだまだですが、この経験を生かして島前病院らしい薬剤師になりたいです。





## ⑨看護師 島本由希子

東北支援は私の人生発の一人旅でした。しかも東北という遠い地で緊張がものすごかったです。でも東北の方、JRSの方に助けられ1週間の東北支援を終えることができました。はたしてどっちが支援をしてきたのかという感じでした。テレビで見ていた被災地を実際にみて、心に重たくズシッとくるものを感じ、自分は何ができるのかなと思っていましたが、普段通りの看護をしていけばいいのだと感じました。一緒に在宅診療へ回って下さった Dr. N s へ感謝し、今後の看護師としての人生に広い視野をもたらせてくれた支援であったと思います。ありがとうございました。



## ⑩看護師 上谷千代美

第11代目の派遣で活動しましたが7月末ということで環境や交通、住宅事情などかなり改善されており、初めの方に比べて随分楽であったと思います。トレーラーハウス内は整備され、作業システムも整い、特に記録に関しては工夫と修正がなされ、誰が見ても分かりやすいものになっていました。スタッフの中で村岡所長は自身被災者でありながら当初より中心となって活動し、3人の若い女性スタッフもプライバシーの全くない状況下で休日返上で活動していました。そこには強い意志と行動力と精神力、それにチームワークの良さを感じました。私だったら精々1週間が限度であったと思います。



一番印象に残った所は、気仙沼向洋高校の現場と陸前高田のたった1つ残った一本松の風景、今でも目に焼き付いています。訪問したケースの中では新規の方で、被災後嫁の実家に身を寄せていた方をやっとの思いで救急搬送しましたが、その日のうちに亡くなられたこと。まだまだ二次的三次的被害者が大勢いることを感じました。

これからも東北、特に気仙沼の今後については興味深く見守りたいし、また機会があれば訪問したいと思っています。今回の被災者支援の仲間に入れたことをとても感謝しています。

## ⑪医師 竹田和希

島前病院東北支援チームのアンカーとして8月1日～8月5日まで気仙沼まで行ってまいりました。3月に震災が発生してからどんな形でもいいので自分なりの形で何か支援ができればなあという思いでいました。そんな折、島前病院チームのアンカーの時に派遣されてくるDrがいらないとの事で、「支援に行ってみない？」との言葉をかけてもらい「行きます！」と返事をさせて頂きました。気仙沼では在宅支援としてひたすら訪問し褥瘡(床ずれ)の処置をさせて頂きました。僕自身も東北に実際に行って今回の震災のすさまじさを目の当たりにし改めて津波の破壊エネルギーの甚大さを思い知らされました。そんな中微力ながら支援に関われてよかったですと思います。



検査や診察の予約をされていた方々には予約を急遽変更させて頂き、ご迷惑をおかけしましたが、お陰様で僕自身の勉強にもなりましたし、貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。





## ⑫看護師 松浦幸子



最終メンバーとして8月1日から5日まで支援活動に参加させていただきました。この時期は「被災地で活動医師がない」の連絡があり、当院の竹田医師と共に出かけることになりました。いつも島で一緒に仕事をしているので不安や戸惑いは全くありませんでした。被災地は震災後6か月といえども、まだまだとても言葉にできない被害の大きさがありました。そんな中、自分のクリニックも被災に遭いながら現地で在宅医療活動をしている村岡医師と震災直後より現地に入りボランティア活動をしている3名の看護師さん（斉藤・西尾・兵頭）に大変感動しました。現地で活動し続けたことにも感謝でいっぱいですが、全国からの医療スタッフを受け入れ、被災地の患者さんへの対応などを含めて、それらのマネジメントがとても素晴らしく実践していたことに学ばせて頂くものがありました。隠岐島前病院の3か月継続支援は被災地に出かけるフタツフ、残って現場を守るスタッフとみんなで繋いだ3か月でした。この機会を与えていただきました多くの皆様に感謝でいっぱいです。心からお礼申し上げます。そして改めて東日本の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 3. おわりに

活動に参加する前は被災地へ行くことが「支援活動」と考えていましたが、実際に行くことも、行っているスタッフをサポートすることも支援に繋がることに気付かされました。病院のスタッフだけでなく、地域住民の皆さんの協力があったからこそ、この支援活動は続けることができました。自分ができることをする、それが小さな事でも大きな結果や影響をもたらすことを知ることができました。

復興にはまだまだ時間が掛かかります。震災から6ヶ月が経ちました。その間サポートに入ったのはたった3ヶ月かもしれません。小さな地域の小さな病院がどれだけの力になれたのかはわかりませんが、支援活動に参加したことが隠岐島前病院に与えた影響は大きなものとなりました。

今回支援活動に参加するにあたり、受け入れてくださった気仙沼の方々やJRSの皆さんをはじめ、協力いただいた地域住民の方々に感謝申し上げます。

## 4. おしらせ & 次回予告

今回は『だんだん5号』として『東日本大震災支援特集号』とさせていただきます。

被災地が復興するにはまだまだ時間がかかると思いますが、少しでも早い復興をお祈りします。そして元気になった気仙沼に会いに行きたいと思えます。

今回は9/21島根大学、9/22島前地区で行われた報告会の様子をはじめ、今の病院の様子をお伝えする予定です。

ご意見・ご感想等ありましたら右記の電子メールまでご連絡頂けると幸いです。

最後までお読みいただきありがとうございます。

隠岐広域連合立 隠岐島前病院

〒648-0303

島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

電話番号

08514-7-8211

Fax 番号

08514-7-8702

電子メール（看護部）

[dz-kaigo@sx.miracle.ne.jp](mailto:dz-kaigo@sx.miracle.ne.jp)

